

●●●●●●●●●●平成 28 年を迎えて●●●●●●●●●●

教育庁指導部義務教育指導課長 川越 豊彦

平成 28 年がスタートし、一月が経ちました。各学校では、この 1 年間を振り返るとともに、教育課程の編成等、来年度の教育の充実に向けた準備を進められていることと思います。また、子供たちも日々の活動を通して、進級や進学等に向けて夢や希望を膨らませていることと思います。先生方におかれましては、子供たちが夢や希望を実現できるように、子供たち一人一人を支えていただければと存じます。

さて、現在、東京都教育委員会では、全国や都の学力調査で明らかになった課題の一つである子供たちの思考力、判断力、表現力等を育むため、先生方に御協力いただき、「東京方式 1 単位時間の授業スタイル」の開発に取り組んでいます。先日、その検証授業として中学校 1 年の理科の授業を拝見する機会がありました。「地震と火山はどのような場所に多いか」について、様々な資料やデータを分析・解釈し、考えをまとめ発表するという授業でした。授業の感想を述べるとすれば「お見事！」の一言に尽きます。授業は、個人で資料やデータを分析・解釈し、グループでその情報を共有し、活用しながら考察を加え、まとめる。まとめた内容を発表し、クラス全体で情報を共有した上で、課題についての考えをまとめる、という展開でした。よく見かける授業展開ですが、子供たち一人一人がよく考え、よく聞き、よく伝え合い、さらに深く考える授業でした。

このような授業を成立させる要因は多々あるでしょうが、一番印象に残ったのは、先生の子供たちの状況に合わせた臨機応変かつ明確な指示や発問でした。子供たちが、今、何をするのが分かる、この後、何をしていくのが分かる、つまり、何をしたいのか分からず、学習が中断している子供が一人もいなかったことです。子供たちが分かる喜び、できる喜びを実感できる授業を創っていく上で、明確な指示や発問が大切であることは当たり前のことです。しかし、この当たり前のことをしっかり行うことが意外と難しい。この 1 年間を振り返るに当たって、このような視点から授業を振り返ってみてはどうでしょうか。

平成 28 年度、先生方のお力によって、子供たちが分からなかったことが分かる喜び、できなかったことができるようになる喜びを実感できる授業が、全都で展開されることを期待しています。

目 次

○平成 27 年度 学力調査結果より (2) 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果の分析・・・p.2

東京都教育委員会ホームページ内に「学び応援ページ」というコーナーがあるのを御存知ですか？

「学び応援ページ」には、各学校が、指導内容や指導方法等の工夫を通して、授業の改善・充実を図ることを応援するための、様々な事例集や報告書等を掲載しています。ぜひ、御覧いただき、参考にいただければと思います。なお、本通信のバックナンバーも、順次「学び応援ページ」に掲載しています。

(東京都教育委員会ホームページアドレス

<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/>)

「学び応援ページ」を御活用ください！

**東京ベーシック・ドリルも
掲載しています！**



東京都教育委員会ホームページ・トップページ
の下の方に、このリンク用バナーがあります！



★ 本メール・マガジンの配信を希望する方は、件名に「メール・マガジン配信希望」、本文に所属・氏名を御入力いただき、S9000024@section.metro.tokyo.jp へメールを御送信ください。

平成27年度 学力調査結果より（2） 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果の分析

東京都教育委員会は、今年度の「全国学力・学習状況調査」「児童・生徒の学力向上を図るための調査（都独自の調査）」の結果等について公表しました。今回は「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果について紹介します。

◆各教科の平均正答率と習得・到達目標値

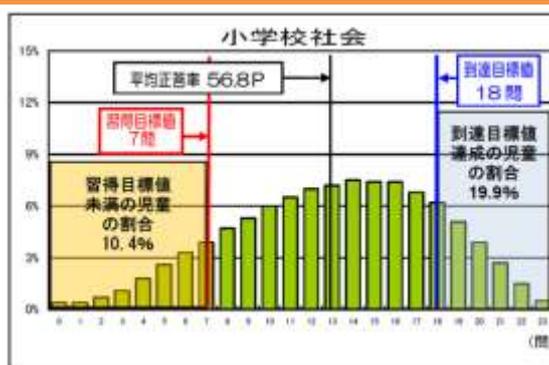
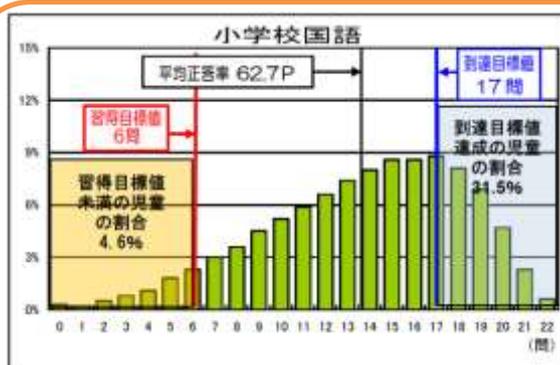
小学校	平均正答率	習得目標値 未達の児童の割合	到達目標値 達成の児童の割合
国語	62.7P	4.6%	31.5%
社会	56.8P	10.4%	19.9%
算数	63.6P	7.2%	32.7%
理科	67.4P	1.3%	47.7%

中学校	平均正答率	習得目標値 未達の生徒の割合	到達目標値 達成の生徒の割合
国語	54.1P	2.1%	20.7%
社会	51.9P	10.9%	11.9%
数学	56.2P	11.7%	16.3%
理科	49.3P	9.2%	5.7%
英語	59.0P	2.8%	31.6%

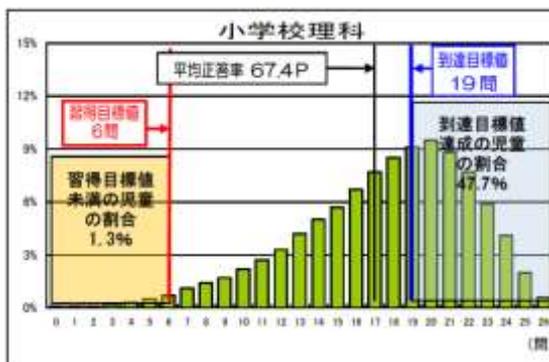
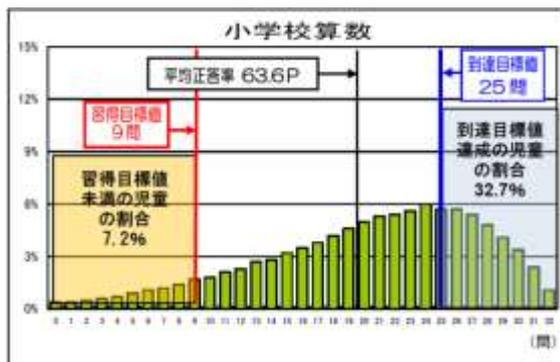
今年度は、全教科で全ての児童・生徒がクリアすべき目標として、教科書の例題レベルの問題である「習得目標値」を、達成することが期待される目標として、教科書の練習問題レベルの問題である「到達目標値」を設定しました。



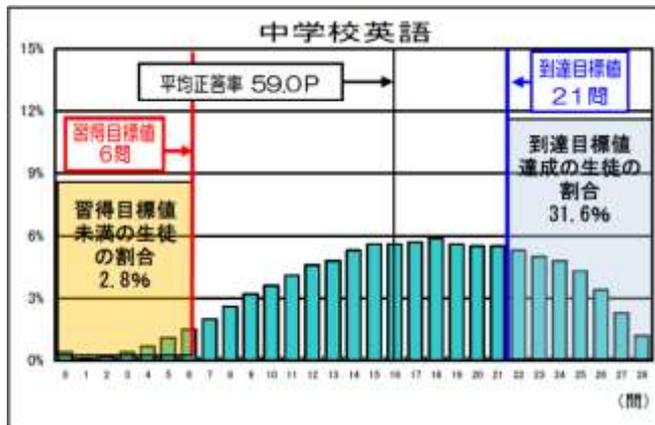
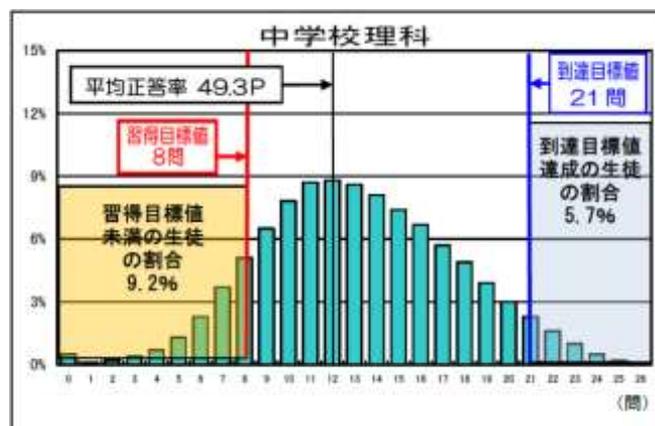
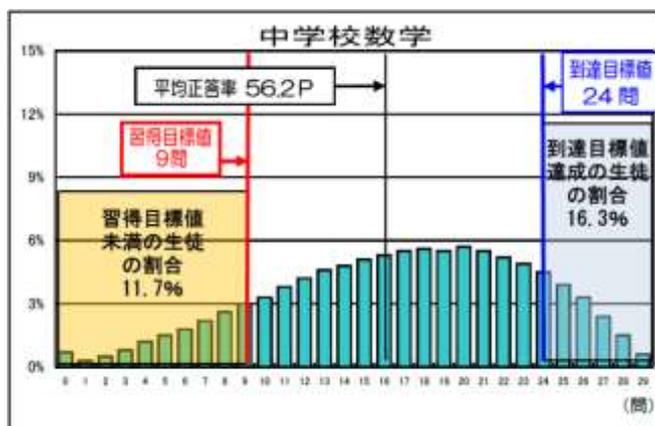
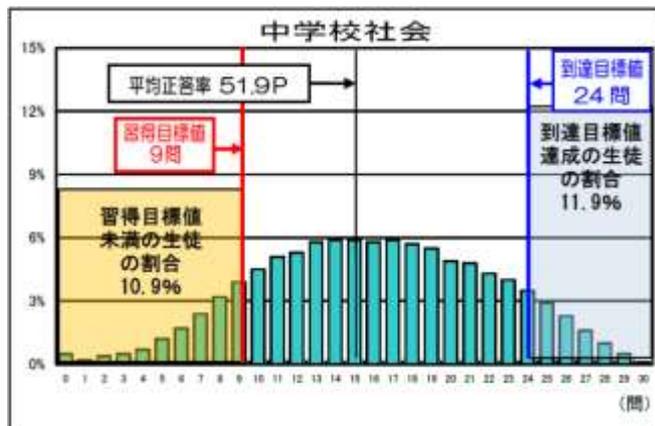
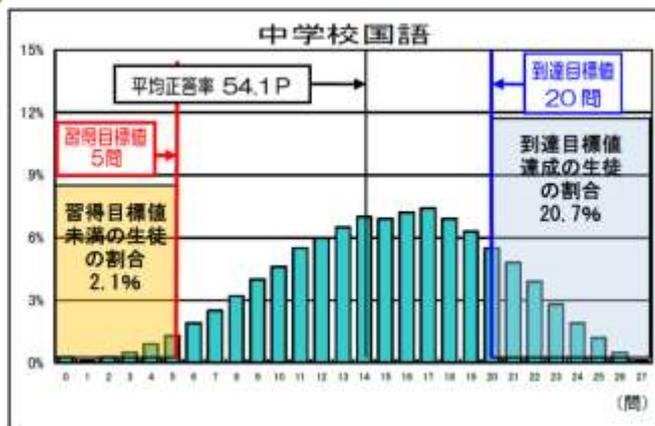
◆各教科の結果（小学校）



縦の赤い線は「習得目標値」を、青い線は「到達目標値」を表しています。



◆各教科の結果（中学校）



東京都教育委員会は、一人一人の児童・生徒の学習の達成状況や誤答の傾向を把握し、確かな学力を育むために、「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果について、次のような取組を行っています。



一人一人の児童・生徒の学習の達成状況や誤答の傾向を把握し、確かな学力を育むために

- 昨年度から児童・生徒一人一人に返却する「個人票」を、全ての問題の正答・誤答の状況が分かる形式に変更しています。
- 都教育委員会が作成している「東京ベーシック・ドリル」を利用し、問題を間違えた時に具体的に立ち戻るべき項目を示しています。
- 中学校では、関連する都立高等学校の入試問題についても示しています。
- さらに、間違えた問題を復習するための「復習のポイント」を示しています。

「調査問題」「個人票」「復習のポイント」を有効活用し、「できる」「わかる」まで徹底して繰り返し指導をすることで、一人一人の児童・生徒の確かな学力を育てていきましょう。



◆ 児童・生徒質問紙調査、学校質問紙調査から

- 「自分の学力に応じたコースに分かれた授業を受けることで、学力が
つくようになると思いますか。」（児童・生徒質問紙調査より）

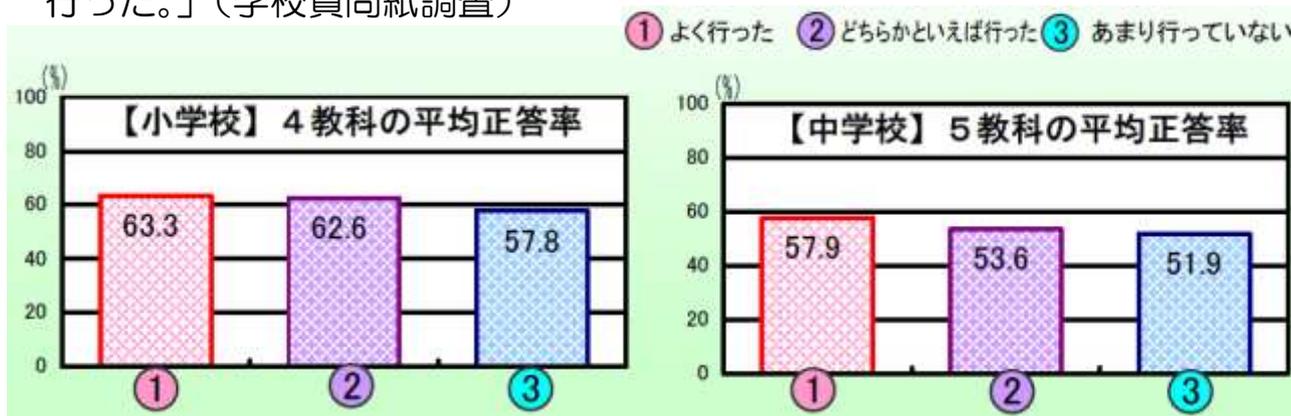
	小学校【算数】		中学校【数学】	
	児童の割合(26年度)	平均正答率(26年度)	生徒の割合(26年度)	平均正答率(26年度)
思う	62.5%(59.2)	67.4 P (66.0)	45.5%(40.6)	61.5 P (59.5)
どちらかといえば思う	30.1%(32.6)	58.8 P (57.9)	41.4%(44.0)	54.4 P (52.0)
どちらかといえば思わない	5.1%(5.6)	54.1 P (52.0)	9.1%(10.6)	51.2 P (46.7)
思わない	1.4%(1.4)	50.8 P (55.1)	3.0%(3.4)	49.3 P (48.3)

この結果から、

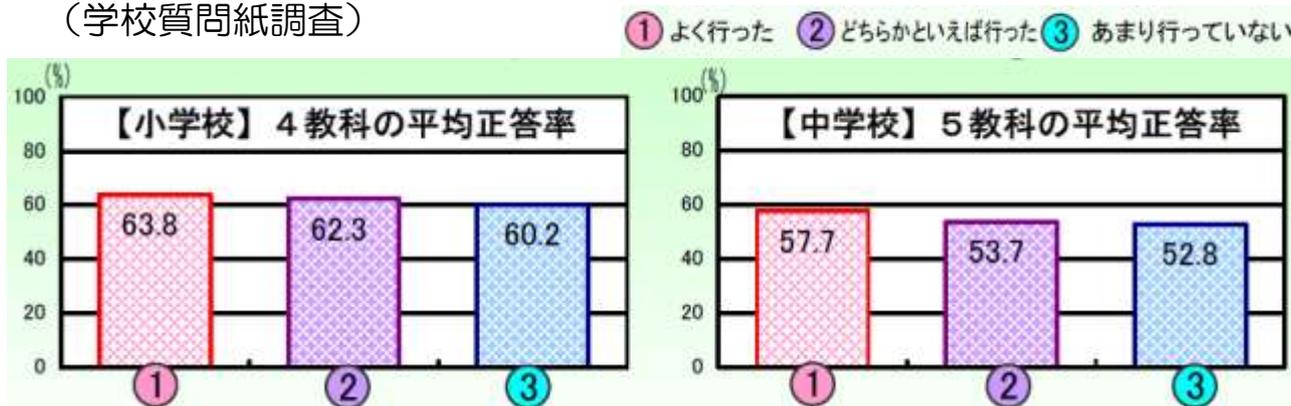
- 習熟の程度に応じた指導について肯定的に捉えている子供ほど正答率が高い。
ことが分かります。



- 「様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を
行った。」（学校質問紙調査）



- 「思考力・判断力・表現力等を育むための言語活動の充実を図った。」
（学校質問紙調査）



この結果から、

- 言語活動を充実させ、思考を深めさせる授業を行っている学校ほど正答率が高い。
ことが分かります。



◆調査から見えた成果と課題

- 学力調査の継続的な実施等により、学力向上に対する教員の意識が高まり、授業改善が図られてきている。
- 習熟度別の学習について肯定的に捉える子供が増える一方、指導方法や内容については差が見られる。
- 繰り返し学習によって基礎・基本の定着は図られているが、言語活動等を通じた思考力等の向上には課題が見られる。
- 放課後の補習や家庭学習を行う割合は増加傾向にあるが、その内容や方法についての組織的な取組が不十分である。



このことから、

- 習熟の程度に応じた指導の一層の充実
- 言語活動等を通して、思考力・判断力・表現力等をより一層育むための授業改善
- 放課後の補習や家庭学習の充実

が必要であることが分かります。

◆今後の方向性

- 基礎・基本の問題、発展的な問題の作成・配布による支援
- 効果的な習熟度別指導、少人数・習熟度別指導の推進
- 放課後の補習や家庭学習の充実のための支援
⇒【東京ベーシック・ドリルの電子化】
- 言語活動を通じた授業や主体的・協働的な学習の推進
⇒【思考力を育む実践授業の公開及び協議会】
- 学力に課題のある地域や学校への継続的な支援
⇒【学校訪問の充実】

東京都教育委員会では、具体的な目標を示し、習得目標値をクリアしていない児童・生徒の割合を減少させ、到達目標値に達している児童・生徒の割合を増加させるために、継続的に検証を行っていきます。

